

## 近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

次雲川村早川村山論村人一件  
二付始末願書一條書控帳

經濟學部  
研究室  
5Z  
1188/1

東大  
11

70  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
80

經濟學部  
研究室

5

1188

天保四癸巳年四月

早川村早川村山端友一  
始末願書之條書控帳



38488

早川村  
下書

一山安書子年約古書

一 在年中... 燒... 日... 漢... 此... 漢...





燈をともして 正夏祭の ちやうど 祭の  
狂歌はつて 右の 儀は 法書に あり  
て 以上 祭の 儀は ちやうど 祭の  
早川 祭の 儀は 祭の 儀は 祭の  
祭の 儀は 祭の 儀は 祭の  
左に あり 祭の 儀は 祭の 儀は

祭の 儀は 祭の 儀は 祭の 儀は  
祭の 儀は 祭の 儀は 祭の 儀は  
祭の 儀は 祭の 儀は 祭の 儀は  
祭の 儀は 祭の 儀は 祭の 儀は  
祭の 儀は 祭の 儀は 祭の 儀は  
祭の 儀は 祭の 儀は 祭の 儀は  
祭の 儀は 祭の 儀は 祭の 儀は  
祭の 儀は 祭の 儀は 祭の 儀は  
祭の 儀は 祭の 儀は 祭の 儀は  
祭の 儀は 祭の 儀は 祭の 儀は

そと書きあはれ 大令 一と云ふ  
あるは 任すは 任すは 任すは 任すは  
は 任すは 任すは 任すは 任すは  
任すは 任すは 任すは 任すは

中 任すは 任すは 任すは 任すは  
任すは 任すは 任すは 任すは  
任すは 任すは 任すは 任すは  
任すは 任すは 任すは 任すは

任すは 任すは 任すは 任すは  
任すは 任すは 任すは 任すは  
任すは 任すは 任すは 任すは  
任すは 任すは 任すは 任すは  
任すは 任すは 任すは 任すは  
任すは 任すは 任すは 任すは  
任すは 任すは 任すは 任すは  
任すは 任すは 任すは 任すは

此書の如く卷の如く抄録の如く筆書の上  
の如く其の如く天の如く卷の如く其の如く  
抄又其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く





おのれをいふはあはれなり  
中へいふはあはれなり  
いふはあはれなり  
いふはあはれなり  
いふはあはれなり  
いふはあはれなり  
いふはあはれなり  
いふはあはれなり

おのれをいふはあはれなり  
中へいふはあはれなり  
いふはあはれなり  
いふはあはれなり  
いふはあはれなり  
いふはあはれなり  
いふはあはれなり  
いふはあはれなり

山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
中尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。

山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。  
山尾のてんてん。山尾のてんてん。山尾のてんてん。

俱書中 多事之 此中 亦不 却  
之 之 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
今 今 今 今 今 今 今 今 今 今  
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之  
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之  
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之  
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

之 之 之 之 之 之 之 之 之 之  
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之  
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之  
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之  
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之  
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之  
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之  
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之  
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之  
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之



中身在... 五ノ三ノ

山ノ原ノ...

陳ノ...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

予等乃由石原山...  
及至山頂...  
村山...  
...  
境...  
...

予等乃由石原山...  
中間...  
...

予等乃由石原山...  
...

冷島角の山に於て。山頂に  
ては但今もあつた。山頂に  
於ては。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に

① 山頂に。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に  
山頂に。山頂に。山頂に

切候之御文より在り申分人々御意  
候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意  
申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意  
申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意  
申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意  
申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意  
申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意  
申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意

申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意  
申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意  
申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意  
申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意  
申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意  
申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意  
申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意  
申候事<sup>上</sup>申上<sup>下</sup>申候是<sup>上</sup>候<sup>下</sup>御意



書之中心は法吉の所抄に於て又志符  
は兼てその能成るべし然るに多  
く要するなり早川は其の志  
に似て早川は其の志に似て  
其の志に似て早川は其の志に似て  
其の志に似て早川は其の志に似て

中一文字は早川は其の志に似て  
其の志に似て早川は其の志に似て  
其の志に似て早川は其の志に似て  
其の志に似て早川は其の志に似て  
其の志に似て早川は其の志に似て  
其の志に似て早川は其の志に似て  
其の志に似て早川は其の志に似て



信し海に渡りて遠く見下りて  
立ふ事多しとて双丸事難  
つとふ所あるとて交信を何れも  
未だ物言ひ難しとて  
余は之を後より思ふとて  
早川に書きて其の由を三服に

手紙をとりて夫れは  
見し事多しとて  
海に渡りて

一人の事多しとて  
手紙の事多しとて

挿入文書

一  
方々行漫合相書有以高花中管者  
通境前分ふ如身其心乃与亦志  
却中は降先子向百法入お言  
今之私之居有は物  
子向分年七曲下境前  
上多く伏上  
松

十有五年八月廿八日  
奉 命 出 使 高 麗  
中 外 交 涉 甚 多  
所 關 甚 重 宜 加 意 籌 畫  
務 使 各 事 均 能 妥 協  
并 下 各 屬 官 亦 宜 加 意 督 導

切 予 一 切 均 宜 妥 協  
勿 使 有 誤 亦 宜 加 意 籌 畫  
務 使 各 事 均 能 妥 協  
并 下 各 屬 官 亦 宜 加 意 督 導  
切 予 一 切 均 宜 妥 協  
勿 使 有 誤 亦 宜 加 意 籌 畫  
務 使 各 事 均 能 妥 協  
并 下 各 屬 官 亦 宜 加 意 督 導







其意相又公也... 山名... 村... 文化年中... 山名... 村... 山名... 村... 山名... 村...

山名... 村... 山名... 村... 山名... 村... 山名... 村... 山名... 村... 山名... 村... 山名... 村... 山名... 村... 山名... 村...

東の山に雲ありて  
流るる水は清く  
映るる石は白く  
芳林の樹は青く  
空の鳥は高く  
川の流れは速く  
山の花は紅く  
川の流れは速く  
山の花は紅く

丁酉年正月

長花

東の山に雲ありて  
流るる水は清く  
映るる石は白く  
芳林の樹は青く  
空の鳥は高く  
川の流れは速く  
山の花は紅く  
川の流れは速く  
山の花は紅く

〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃

甘澤先生集

經濟學部  
研究室  
印

齊